

2025年12月期 第2四半期決算説明会

2025年8月22日 帝国繊維株式会社

第1回IR

特殊車輜と1台二役三役の次世代消防車両

第2回IR

「EV消防車と太陽光発電とリネンと」
テイセンのCO₂削減について

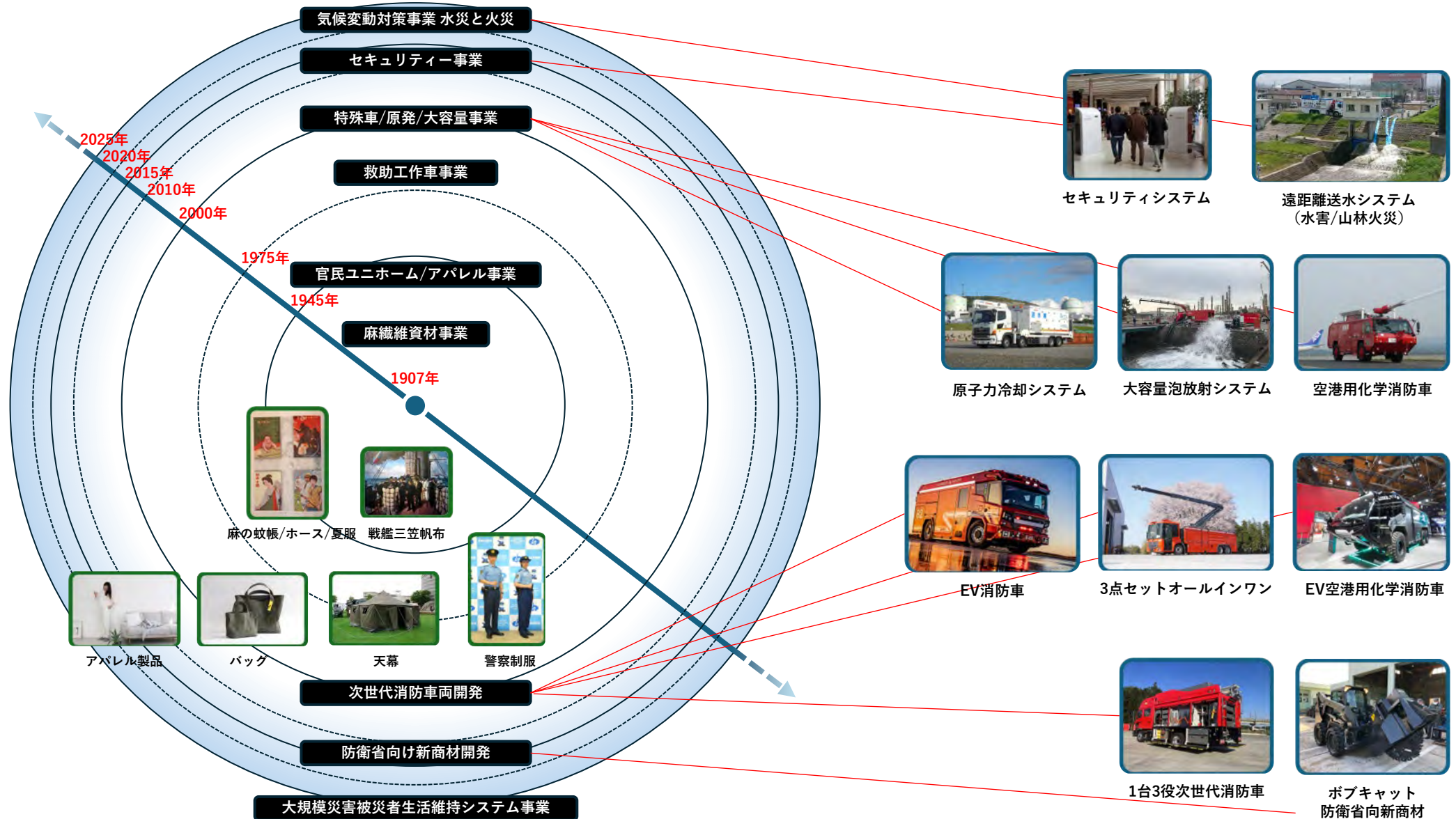
第3回IR

「消防防災機材」から「大災害後の生活維持システム」へ

第4回IR

テイセン120年の商材の年輪

テイセン120年の商材の歴史



自衛隊



警察



原子力発電所



石油コンビナート



空港消防



大都市消防



石油コンビナート



空港EV消防車



市町村消防



自衛隊



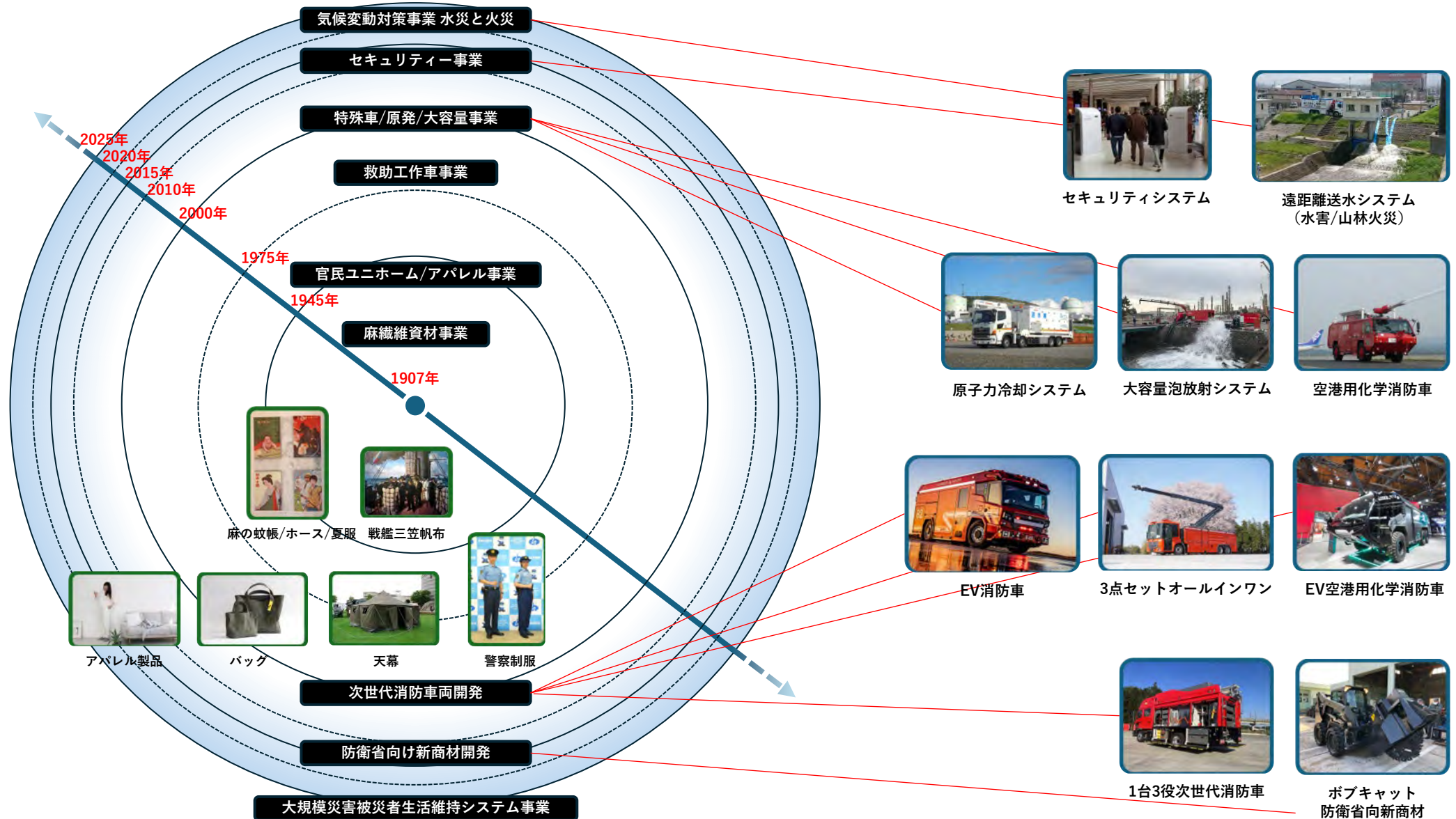
民間セキュリティ



国交省・市町村役所



テイセン120年の商材の歴史



ご清聴ありがとうございました

2025年8月22日 帝国繊維株式会社（証券コード: 3302）

2025年8月22日

2025年12月期
決算説明会資料

中間決算の概要

帝国繊維株式会社
(証券コード:3302 東証プライム市場)

TEIKOKU SEN-I Co., Ltd.

“防災先進国日本の一翼を担う”



テイセン 帝国繊維株式会社

〒103-6115 東京都中央区日本橋二丁目5番1号
(日本橋高島屋三井ビルディング15階)

 www.teisen.co.jp

証券コード:3302

目次

01	トップメッセージ	03
02	テイセン未来創造計画	06
03	当社が目指す姿	07
04	トピックス	09
05	業績概要	10

世界でも、存在感ある会社を目指して —

2011年3月に発生した東日本大震災、続く原子力発電所の事故は、民間企業、特に基幹産業分野において重要な役割を担う「防災のテイセン」が確立した出来事です。



原子力発電所の事故の際には、東京消防庁が出動し、当社がお納めしたポンプシステムを使い連続冷却に成功、最悪の事態を防ぐことに大きく貢献しました

多発化・多様化・激甚化する自然災害への備えは日本だけの問題ではありません。

災害大国であり、防災先進国を目指す日本の中で、当社がこれまで事業を通じて得たノウハウは海外の防災市場拡大にも対応できるものです。

すなわち、最先端技術や商材を組み合わせ、ユーザーが求める「システム」を開発・提案する。

当社だからこそできるビジネスモデルを構築・展開していきたい、と考えています。

01

トップメッセージ

「災害大国日本」だからこそ 世界No1の防災先進国でありたいー

創立118年目を迎える今年、2025年はあの阪神淡路大震災から30年、地下鉄サリン事件からも30年という節目の年にあたります。そしてこの2つの出来事は、繊維事業から防災事業へのシフトを始めていた当社にとっても大きな転換点でありました。

「麻(リネン)の帝国繊維」から「防災のテイセン」へのシフト

阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件以降、当社は防災事業分野を中核に置き、消防・警察・自衛隊をはじめとして災害発生時に真っ先に現地に向かう人たちのために、災害現場のニーズに正面から向き合い、その活動を支える商材・システムの開発・提案に取り組んできました。



人を創る、仕事を創る、人と仕事を繋ぐ企業文化を創る

2023年からスタートした「テイセン未来創造計画」は、
当社が10年後にありたい姿を目指して取り組んでいくことを3つのフェーズに分けて示したものです。

「テイセン未来創造計画」で掲げる3つのテーマ

人を創る

仕事を創る

人と仕事を繋ぐ企業文化を創る

グローバルにも自然災害やテロ等のリスクは増大しており、
また、世界各地で武力衝突が発生する緊迫した国際情勢などの
外部環境の変化に伴い、海外を含め当社が担うべき役割が拡大する中、
市場のニーズに応えるためには社員1人1人の成長が不可欠です。

引き続き「テイセン未来創造計画」を推進することで名実ともに、
世界に通用する防災企業として社会及びステークホルダーの皆様から
絶対的な信任をいただくことを目指してまいります。

帝国繊維株式会社
代表取締役会長 CEO 白岩 強

中長期ビジョン『テイセン未来創造計画』(2023～2032)

『人を創る・仕事を創る・人と仕事を繋ぐ企業文化を創る』をテーマに、当社が10年後に目指す姿に向けて今後取り組む内容を示しています

人を創る

人材育成

- 1.役割・課題・目標・行動の設定
- 2.資格取得・研修制度の整備・拡充
- 3.社員間の対話・交流の場を設定
- 4.人材交流の活発化
- 5.「仕事の面白さ」「成長実感」

社員の幸福・健康

- 1.福利厚生制度の拡充
- 2.職場環境の整備

インフラ

システム・情報インフラの革新
➡ デジタル化の推進

資本政策

- 1.成長投資
- 2.株主還元の拡充

仕事を創る

事業計画

先進的防災事業を確立・発展させ
多発化・激甚化・多様化する各種災害の脅威から
社会や事業の安心・安全を守る

フェーズⅢ（進化）

フェーズⅡ（成長・発展）

フェーズⅠ（未来への基盤作り）

1.市場開拓の強化と圧倒的市場競争力の確立

- (1)送排水ビジネスの拡大
- (2)セキュリティビジネスの開拓
- (3)防災特殊車輛ビジネスの創造
- (4)メンテナンス業務の事業化
- (5)基盤事業（ホース・機材・車輛・防火衣）の一層の磨き上げ

2.営業を支える下野・鹿沼両工場の機能拡充・強化

- (1)コスト・品管センターとしての役割徹底
- (2)技術・開発センターとしての能力強化
- (3)教育、訓練、実証実験等の幅広い分野での施設充実と活用（総合技術センター構想）

3.持続的収益力の強化

- (1)新たな事業基盤獲得による収益基盤の強化
- (2)連結営業利益50億円以上／連結経常利益60億以上

企業文化を創る

企業文化・企業風土

- 1.魅力を感じ、愛着を持てる会社
- 2.達成感・成長実感が持て、安心して働ける企業風土
- 3.共通の価値観の設定
「対話、発信、協調」（個から組織へ）
「すぐやる、やり抜く」
「業務を俯瞰し、仕事の幅を広げる」
「良く学び・良く働き・良く遊ぶ」

制度・仕組み

- 1.テイセングループの一体化
- 2.組織改革・人事制度改革
- 3.必要な機能の装備
- 4.守るべき行動基準の策定・徹底

不動産開発

札幌・音更の有効活用

社会的責任

地球環境の保全(E)

豊かな社会(S)

企業の健全経営・ガバナンス(G)

わたしたちのミッション

先進的防災事業を確立・発展させ

多発化・激甚化・多様化する各種災害の脅威から社会や事業の安心・安全を守る

- ▶ メーカー機能を土台として、商社機能を拡充させ、事業が発展
- ▶ ファーストレスポnder(消防・警察・自衛隊)とのリレーションを背景に、海外の最新鋭・最先端の商材を拡販
- ▶ 自社製品の商材開発・用途開発に加え、商材の発掘をグローバルに展開する

商社機能

- ▶ 欧州一の消防車メーカー
ローゼンバウワー社(オーストリア)
- ▶ ポンプメーカー
ハイトランス社(オランダ)
- ▶ その他国内外サプライヤー
- ▶ 海外の同業者ネットワーク

- ▶ システム化
- ▶ 海外商材の国内仕様化への対応

メーカー
機能

- ▶ 鹿沼工場(ホース)
- ▶ 下野工場
(車輛製造・開発・実験)



ローゼンバウワー社 空港化学消防車



ハイトランス社 ハイドロサブシステム



ルーカス社 救助機材



ローデシュワルツ社 ボディスキャナー



ボブキャット社 スキッドステアローダー



兼松エンジニアリング社 土砂吸引車



アブステック社 HSS



ラビスキャン社 Itemiser



消防用ホース



大口径ホース(大量送排水用)



救助工作車(消防レスキュー隊)



海水利用型消防水利システム
(ハイドロサブシステム)

消防を中心に、防災に役立つ商材を展開しています

	火災	交通災害	震災	風水害土砂災害	火山火災	原子力災害	テロ
消防 消防本部数 722 消防署数 1,714	 消防ホース  10t水槽車	 救助機材(ルーカス)  救助機材(ルーカス)	 救助工作車  救助機材(ルーカス)	 アトランティカ (小型排水ポンプ)			 オーレット (化学剤検知器)
官公庁等 自衛隊・自治体・空港等 市町村数 1,718 空港数 97	 空港用化学消防車		 オールインワン (ハイドロサブシステム)	 ハイドロサブシステム 大口径ホース	 強力吸引車 (土砂吸引車)	 非常時緊急時 冷却システム (ハイドロサブシステム)	 ボディスキャナ
民間企業 電力会社・コンビニート等 原子力 発電所 15 広域共同 防災組織 12	 ハイドロサブシステム 大口径ホース	 ボディスキャナ (鉄道を想定)	 ハイドロサブシステム		 ポプキャット	 大口径ホース	 爆発物検知器

各種災害に対し、消防・自治体から高い評価を獲得

岩手県大船渡市 林野火災での水利確保



緊急援助隊(宮城県隊)に納入した
遠距離大量送水システム(スーパー
ポンパー)により海水を汲み上げ、
約2km先のポンプ車に送水し、消火
活動の水利確保で活躍

画像出典:総務省消防庁X
(2025年3月1日)

宮城県都城市 排水ポンプ配備



都城市に納入した排水ポンプの操作訓練の様子(市から委託され
ている地元の建設会社らが参加)

画像出典:NHK
(2025年6月5日)

2025年度 上半期 連結業績概要

- ・当上半期は、前年同期比増収・増益
- ・好調な受注残(次ページ)を元に、今期公表値の達成を見込む。但し、シャシ調達や販売先事情等による納期のズレが現時点での懸念材料

(単位:百万円)

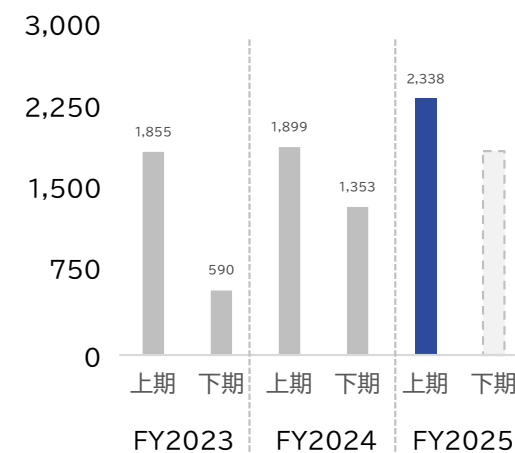
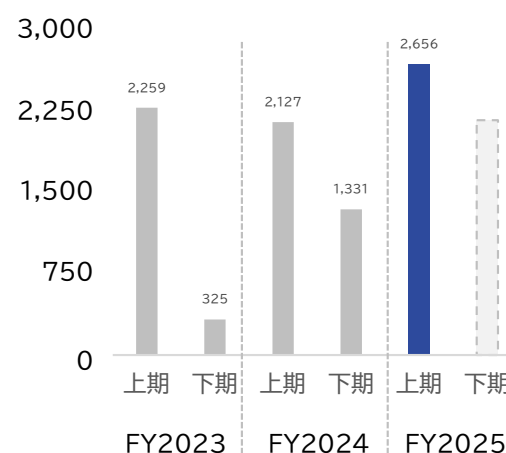
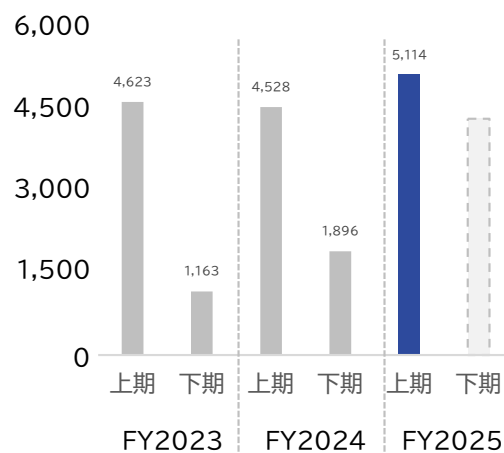
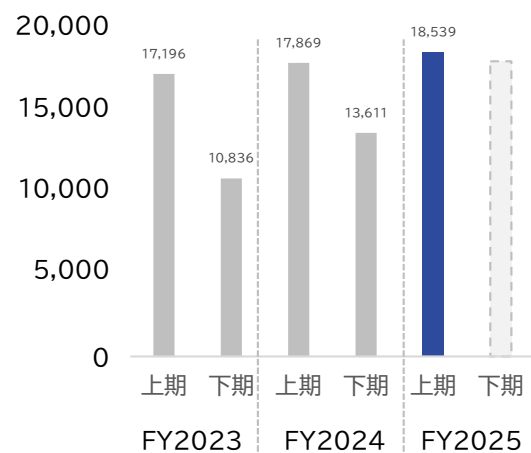
	FY2024		FY2025	
	上半期	通期	上半期	通期見込(公表値)
売上高	17,869	31,481	18,539	36,500
売上総利益	4,528(25.3%)	6,424(20.4%)	5,114(27.5%)	—
営業利益	2,127(11.9%)	3,459(11.0%)	2,656(14.3%)	4,800(13.1%)
経常利益	2,688(15.0%)	4,553(14.5%)	3,308(17.8%)	6,000(16.4%)
当期利益	1,899(10.6%)	3,253(10.3%)	2,338(12.6%)	4,200(11.5%)

売上高

売上総利益

営業利益

当期利益



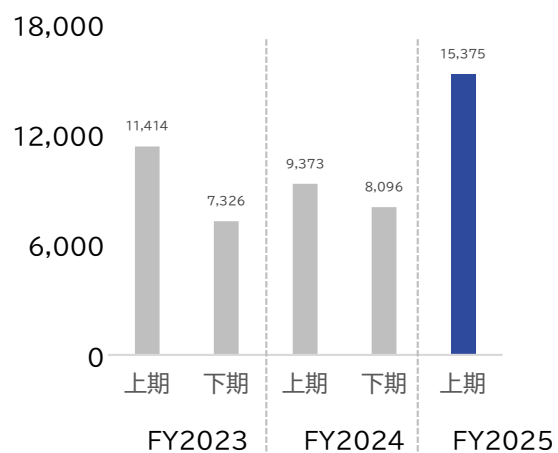
2025年度 上半期受注高・受注残高 (帝国繊維単体)

- ・当上半期は、受注が好調に推移した結果、受注残も前年同期比55億円増加し225億円と高水準となる
- ・増加している主な製品は、空港化学消防車(空港化学消防車)、防衛省向け商材(繊維)及び東京消防庁向け資機材(消防)
()は次ページ以降における事業分野

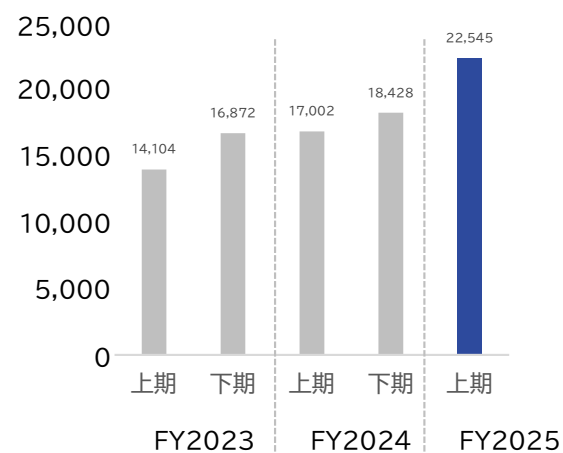
(単位:百万円)

	FY2023		FY2024		FY2025	
	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	前年同期比
受注高	11,414	7,326	9,373	8,096	15,375	+64.0%
受注残高	14,104	16,872	17,002	18,428	22,545	+32.6%

受注高



受注残高

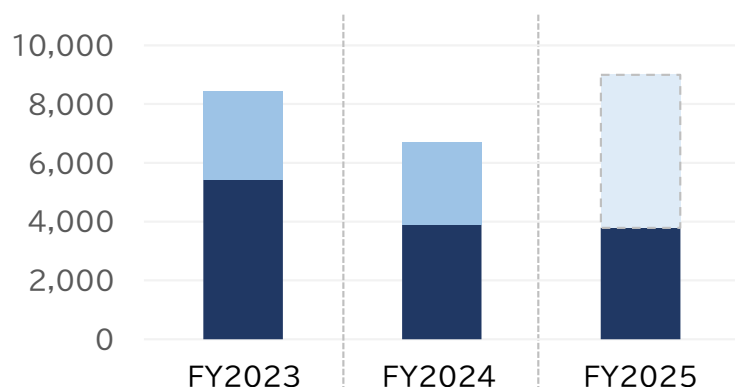


事業分野別の売上実績

(帝国繊維単体)

■ 上半期実績 ■ 下半期見込み

消防



市場説明等

- ・対象は、全国の消防本部722、消防署1,714
- ・消防ホース、救助資機材、救助工作車、防火衣が主な品目
- ・原則、更新需要かつ入札制度
- ・林野火災、リチウムバッテリー火災等新たな課題に取り組む

・消防ホース

昨年販売開始した新型ホースNewマイティーホースの販売堅調、消火栓ホースの需要も堅調であり、前期は増収増益

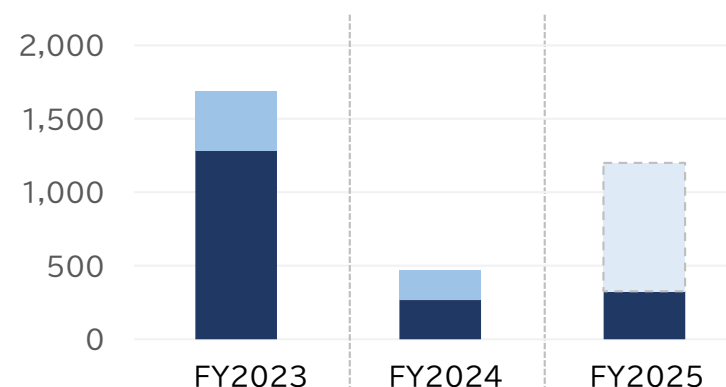
・救助資機材

下半期には大型案件により前期比増収増益を見込む

・救助工作車

シャシ供給は依然不安定ながら先行手配等に対応し前期を上回る納車台数で増収増益を見込む

原子力



市場説明等

- ・主な対象は、電力会社10社／原子炉33基
- ・非常時緊急時冷却システム(ハイドロサブシステム)が主要品目
同システムは、非常時に海水等により炉心を冷却し、かつ放射能の拡散を防止するシステム
(原子力施設稼働に当たっての原子力規制委員会の安全基準)
- ・現在は、新規導入段階から更新段階にある

- ・既存ユーザーへのホース・追加資材等の納入により、上半期は前期比増収増益、下半期も大型更新案件の一部で納入が始まることから通期増収増益を見込む

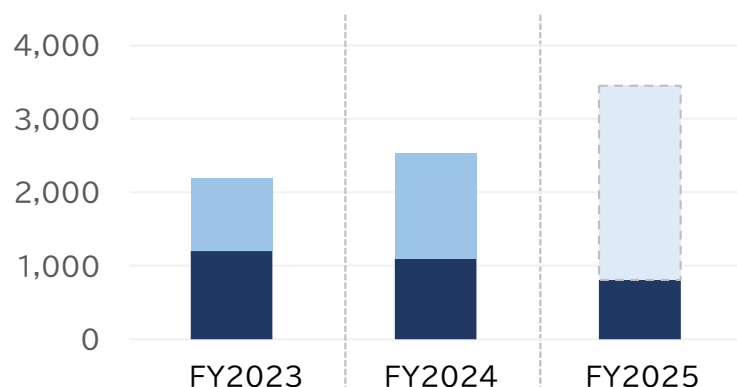
- ・複数の電力会社から更新に関する受注を獲得する等更新需要の取込みも順調に推移
来期以降本格化が見込まれる更新需要の更なる受注獲得に注力する

事業分野別の売上実績

(帝国繊維単体)

■ 上半期実績 ■ 下半期見込み

送排水・コンビナート

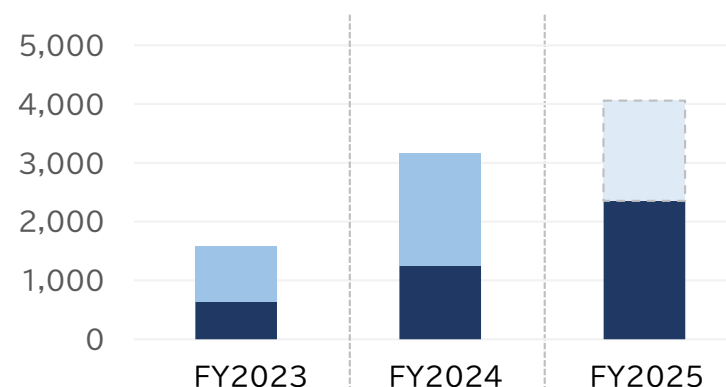


市場説明等

- ・対象:自治体・官庁(国土交通省・農林水産省)及びコンビナート
自治体:全国の自治体1,700、特にハザードマップ上水害リスクのある自治体約1,000
国土交通省:各地方局における大雨・洪水対策
農林水産省:農地用水(灌漑)、大雨対策
コンビナート:全国12ブロックの大容量協議会及び個別事業所

- ・自治体向けの送排水システム(ハイドロサブ)の売上・受注が順調に推移し上期は計画通り着地。引き続きデモ等の営業活動に鋭意取り組み、受注案件の積み上げに注力
- ・コンビナートにおいて、今期大型案件を受注
大容量協議会向け受注も順調に拡大

セキュリティ



市場説明等

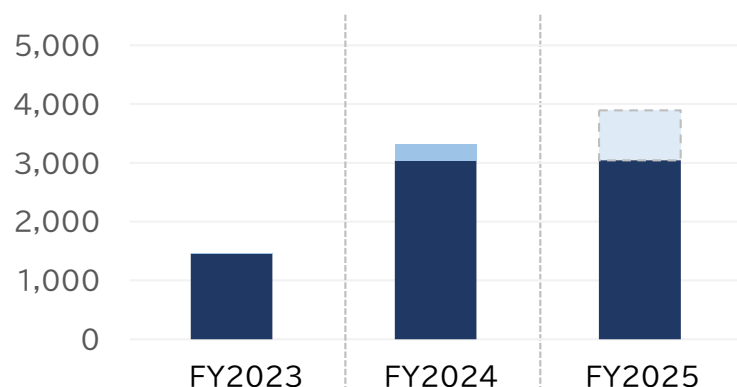
- ・ボディスキャナー、爆物検知器等空港セキュリティビジネスからの展開がテーマ
- ・規制分野(空港等)での展開は進むも、非規制分野への展開が鍵
アミューズメント施設、原子力施設、鉄道事業者及びデータセンター・倉庫等への展開を模索
- ・空港の保安検査用ボディスキャナーや航空貨物検査用X線装置等のセキュリティ機器の需要取込みに加え、官公庁向けの各種検知器(インバウンド増加に伴うテロ対策)の納入により増収増益
- ・原発のセキュリティマーケットの維持・拡大、ならびに民間非規制分野におけるセキュリティ機器導入拡大に注力

事業分野別の売上実績

(帝国繊維単体)

■ 上半期実績 ■ 下半期見込み

空港化学消防車

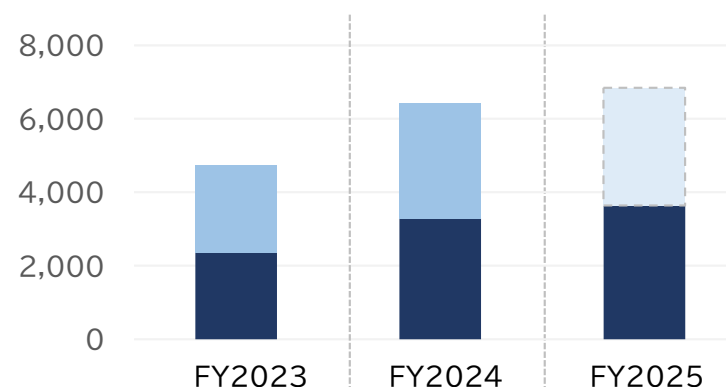


市場説明等

- ・日本には、全国に約100カ所の空港があり、每期更新需要がある。
- ・当社は、ローゼンバウワー社(オーストリア)製の空港化学消防車の代理店として、需要獲得に注力。
- ・今後、EV空港化学消防車を投入予定。
- ・なお、昨年初の羽田空港日航機火災に於いても、当社が羽田空港に納入した車両による初期消火により、乗員・乗客の脱出時間確保に貢献。

- ・上半期は前期並みの納車台数を維持し高水準での売上継続、一方で、受注台数・受注残は積み上がっている
- ・下半期も納車が続き、通期でも前期比増収増益を見込む

繊維



市場説明等

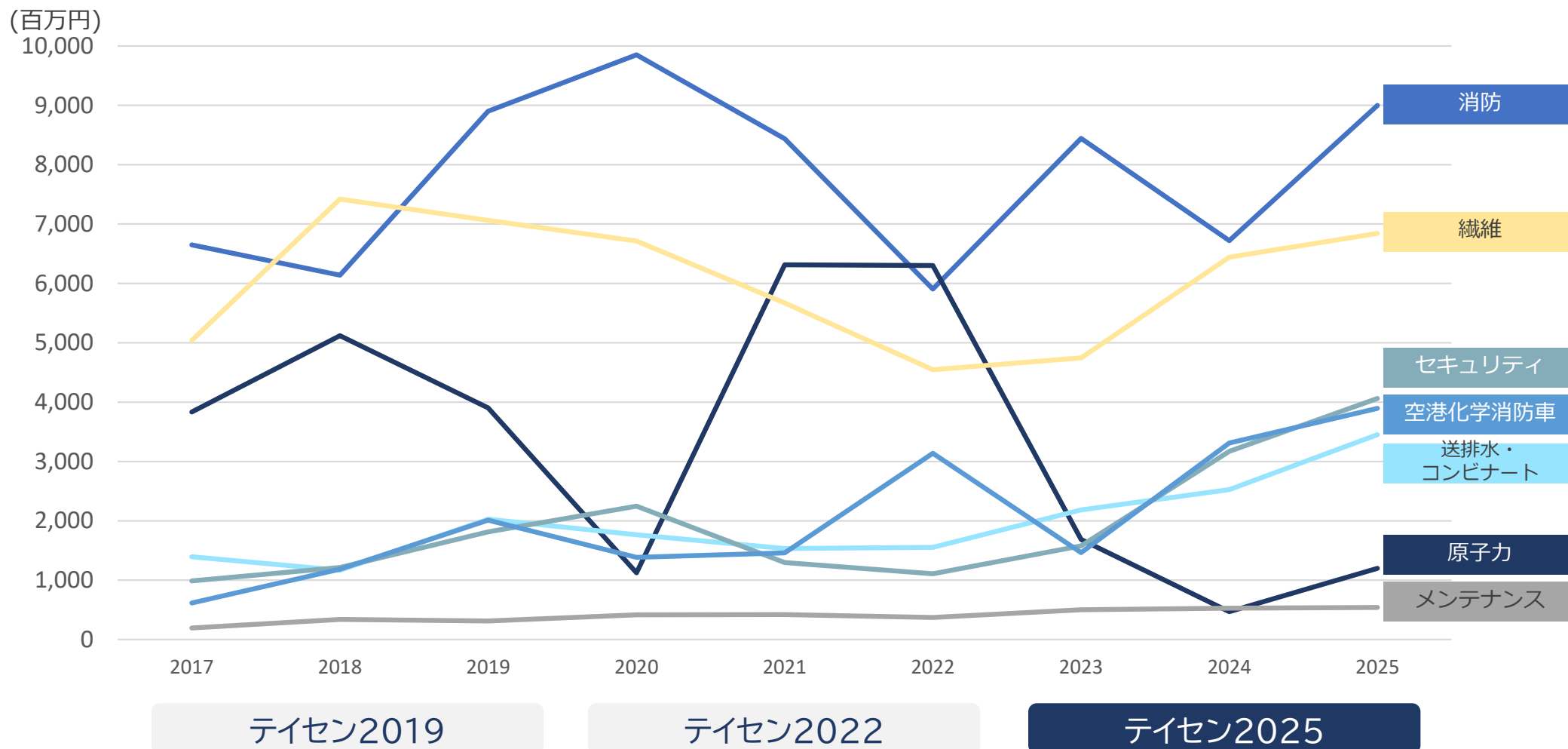
- ・官公庁向け繊維資材、消防向け被服及び麻(リネン)商材が主な品目。
- ・防衛省向けは、予算増により、前期より増収・増益なるも、今後の見通しは注視する必要あり。
- ・防火衣は、安定的であるが、シェア増が課題。
- ・麻(リネン)に関しては、サステナビリティ関連として、更なる展開を図ることがテーマ

- ・防衛省向け予算増を受けた天幕受注が好調に推移
- ・麻(リネン)事業は温暖化等による昨年の収穫減・価格上昇の影響あるが、今期は影響も落ち着き、来シーズン向け需要取込みに注力

事業分野別の売上実績・見込み

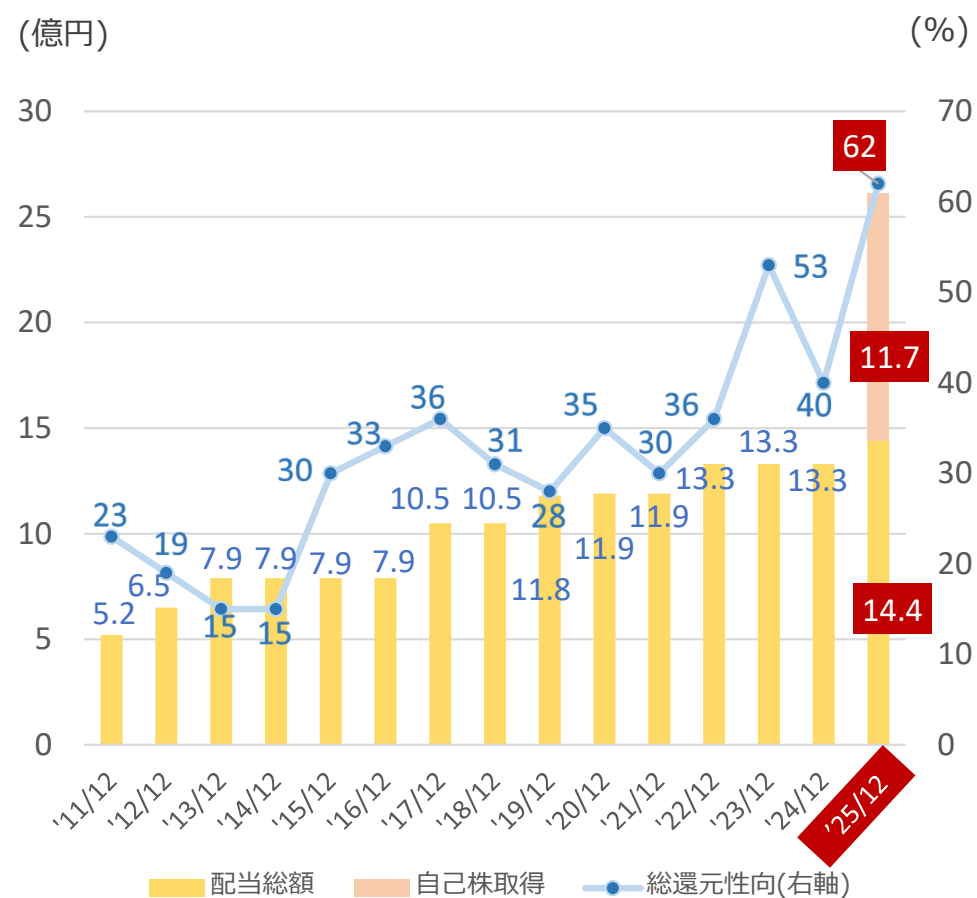
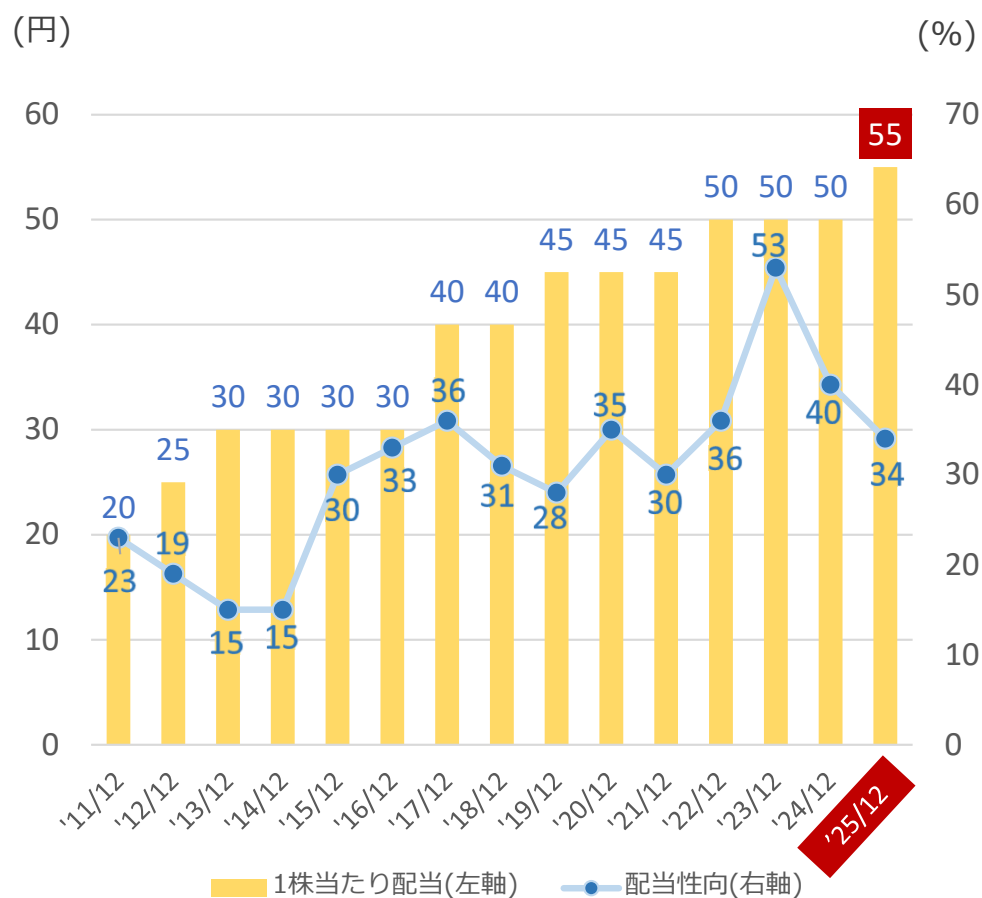
(帝国繊維単体)

- ・概ね全ての事業分野で、前期対比増収の見込み
- ・特に消防関連の売上回復が顕著
- ・原子力は端境期であり、来期以降の売上回復を予定



2025年度 株主還元（※赤で記載したものは見込み）

- ・これまで業績の伸長に併せて株主還元を拡充（「累積配当」を実施）
- ・今期は配当に併せ、自己株取得を実施し総還元性向62%を予定
- ・投資とのバランスも考慮しつつ、今後も株主還元の拡充を予定



当社株価の推移

	2024/12末	2025/8/20	前期末比	備考
株価(円)	2,366	3,050	+684	前期末対比29%上昇
PBR(倍)	0.93	1.17	+0.24	
ROE(%)	5.0	6.2*1	+1.2	*1 今期見込みに基づく予想
PER(倍)	19.0	19.0*2	+0.0	*2 上記ROEを前提に算出

(円) 3400

株
価

3200

3000

2800

2600

2400

2200

2000

1/1 1/9 1/17 1/25 2/2 2/10 2/18 2/26 3/6 3/14 3/22 3/30 4/7 4/15 4/23 5/1 5/9 5/17 5/25 6/2 6/10 6/18 6/26 7/4 7/12 7/20 7/28 8/5 8/13 8/21 8/29

— 終値

Disclaimer

情報提供について

帝国繊維株式会社(以下、当社)では、情報に関し十分に留意しておりますが、当該情報によって利用者の方が被った損害その他に関しては、当社は一切の責任を負いかねます。また、当社は細心の注意を払っておりますが、掲載されている情報には不測の誤りがある可能性があります。利用した情報については利用者の皆さまご自身の責任で管理いただきますよう、お願いします。

将来予測について

過去の事実以外の計画、方針などは、将来の業績にかかる予想値であり、それらはいずれも、現時点において当社が把握している情報に基づく経営上の想定や見解を基礎に算出されたものです。したがって、かかる予想値はリスクや不確定要因を含むものであって、現実の業績は、諸々の要因によりかかる予想値と異なってくる可能性があり、利用者の皆さまが情報を利用することによって生じたいかなる損害についても、当社は責任を負うものではありませんので、あらかじめご了承ください。かかる潜在的リスクや不確定要因としましては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行などの変更などが含まれます。

投資判断について

当社株式の購入や売却の勧誘を目的としたものではありません。投資を行う際は、ご決定は利用者の皆様ご自身の判断にて行っていただきますよう、お願いします。



帝国繊維株式会社